横浜天声キリスト教会　週報　第17巻37号（No.657）　2022年9月11日

礼拝プログラム　※主の導きにより変わる事があります

黙祷　エレミヤ29:12-14a ･･･　御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
*賛美 ･････････････････ 29番　いざ、聖徒よ
*交読文 ･････････････････9番
*使徒信条 ･････････････会衆一同
*頌栄 ･････････････････ 171番　はとのごと降る
礼拝のための祈り ････････ 成田エクレシア：朴執事　天声：小林伝道師
賛美 ･････････････････ 411番　主われを愛す
メッセージ ･････････････ イエス様のふんどしで相撲を取る私達(創世記32:24-30)
御言葉を適用する祈り ･･ 会衆一同
賛美 ･････････････････ 409番　渇(かわ)きあえぐわが魂は
幸せと成功の宣言文 ････ 会衆一同
献金感謝の祈り ････････ パスター
報告 ･････････････････
*主の祈り ･････････････ 会衆一同
*祝祷 ･････････････････ パスター

天声教会は

・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。（ヨハネ1:1、マタイ3:17、17:5）
・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。（ローマ10:10）
・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。（ローマ10:10）
・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。（第二テサロニケ3:5）

祝福の御言葉（下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい）

主は言われる、わたしが____に対していだいている計画はわたしが知っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、____に将来を与え、希望を与えようとするものである。その時、____はわたしに呼ばわり、来て、わたしに祈る。わたしは____の祈を聞く。____はわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もし____が一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしは____に会うと主は言われる。わたしは____の繁栄を回復し、____を万国から、すべてわたしが____を追いやった所から集め、かつ、わたしが____を捕われ離れさせたそのもとの所に、____を導き帰ろうと主は言われる。（エレミヤ29:11−14）

ご自身の御子をさえ惜しまないで、____のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか。（ローマ8:32 ）

メッセージ概要

「人の褌(ふんどし)で相撲を取る」という言葉がある。他人のものを利用して自分の利益をはかる事、自分は犠牲を払わずに、他人のものでうまくやっていくたとえであるが、最近の私達に旬な祈りの言葉である。もっとも私達が「人のふんどし」を求める理由は、自分の利益を求めるためではない。イエス様の利益、神の国の前進のためにである。この度の韓国行きは、他の人が何年もかけてようやく構築した優れたシステムを、そっくりそのまま頂いて来たかのような、まさに「人のふんどし」を獲得した旅路だった。神の民は実に「イエス様のふんどしで相撲を取る者」、虎の威を借る狐ならぬ「イエス様の威を借る羊」だ。イスラエルは自分が建てず人が建てた町々や家々、自分で植えなかった畑を得たが(申命記6章)、私達も同じである。今回、イエス様と相撲を取って、イエス様のふんどしを獲得した、信仰の父祖ヤコブから恵みを得たい。

ヤコブの名の意味は「かかと」、あるいは「押しのける」で、彼は生まれた時から、その名の通りの人生を生きてきた。彼は、兄エサウのかかとを掴みながら生まれ出て、ずる賢く長男の権を奪い、また父からは祝福も騙し取った。その結果、兄エサウから殺意を抱かれたため、母リベカは彼を伯父ラバンの元へ送り出した。

しかしラバンは、ヤコブよりも悪賢さでは数枚上手で、ヤコブはそれによって揉まれたが、神様は彼を助けて下さった。神様は彼を、人のふんどしを掴む者から、イエス様のふんどしを掴む者へ変えるために、あらゆる事を用いられたのだ。 ヤコブがいよいよラバンの所を出て、兄と対面しなくてはならなくなった時、彼は大いに恐れた。彼は、考えられる、ありとあらゆる手段を講じた。彼が兄と対面する直前に、自分の群れを二つに分けて、リスクを分散をしたり、また「贈り物の波状攻撃」をする事で、兄を宥めようとしたりしたけれど、彼の恐れは消えなかった。それで彼は、妻や子供達を先に川を渡らせ、自分は一人、川のこちら側に残った。神様と一対一で向き合い、格闘的な祈りをするためだ。絶体絶命だったからだ。

私達も絶体絶命にならないと、真剣な祈りは中々しない。しかし、いざ、自分の手練手管が全部尽きて、もう何もしようがないまでになった時、ようやく全ての事を手放して、神様と一対一で祈ろうとするようになり、その時、ようやく神様は、実際に私達と出会い、関わって、働きかける機会を得られる。(エレミヤ29:12-14)

『*ヤコブは一人あとに残ったが、ひとりの人（イシュ）が、夜明けまで彼と「組打ち（アバク：レスリング、相撲）」した。*』(32:24)　ヤコブと相撲をしたのは、ひとりの「人：イシュ」であったが、その「人」は、神であった事が、後にわかる。つまりヤコブは、「神であり人であるお方」、すなわち、イエス様と相撲を取ったのだ。

相撲とは、抱きつくように組み合い、顔と顔とを間近に合わせる、生々しい、つかみ合いの格闘である。イエス様は、真剣に求めて来る人には相撲をつけてくださり、生々しく関わって下さるお方なのだ！

ヤコブはその時、もものつがいを打たれて、逃げる足をへし折られ、嫌がおうでも、逃げられなくなった。しかし、それが彼の、全く新しい祝福の人生の始まりだった。今まで人を出し抜き、家族やしもべを先に進ませていたが、今や、『*みずから彼らの前に進み、七たび身を地にかがめて、兄に近づいた。*』(33:3)

彼の問題から逃げる足はへし折られ、ただイエス様と粘り強く向き合い、全てをイエス様に明け渡して、問題と正面から向き合った。私達もそうするなら、人の足を掴むヤコブから、「イスラエル」へとなれるのだ。

相撲は、相手の力が強ければ、押し返される。けれどもイエス様は、ふんどしをつかんで放さない時、全能の力で振り切るお方ではない。むしろ、私達の相撲に付き合って下さり、「夜が明けるから放してくれ」と、語りかけて下さる。つまり主は、こちらが放さない限り、離れられないお方なのだ。そして私達が、身勝手な利益を掴もうとする手を離す時、主のタイムとスペースは動き出し、ベストなタイミングと方法を与えて下さる。

実際主は、エサウとの再開を、平和に計らってくださった。主はエサウに良い地を下さり、彼とは平和に別れる事ができた。主は、確執を起こす方ではなく、自然な形で祝福をいただけるようして下さるのだ。

今、私達は、どんな「ふんどし」を掴むべきか、どんなビジョンを掴もうとするのか、問う必要がある。以前のヤコブのように、独りよがりな利益を掴もうとするのか。それとも神の国の利益のために掴もうとするのか。

以前のヤコブは、ラバンとの、ふんどしの掴み合いで、すり減らされる人生を送った。イエス様ならぬ人間のふんどしを取るなら、相手の力で押し返され、へし折られてしまう。私達はむしろイエス様に全面的に明け渡し、イエス様のふんどしで相撲を取って、世のすべての事を勝ち得ていく神の民「イスラエル」なのだ。

お祈りしていただきたい事がありましたら、以下にお書きの上、教会へお持ち下さい。

集会案内

主日礼拝（日曜）

日本語礼拝	礼拝 11:30
English Service	14:30

日々の集会

月～金　早天祈祷会	5:00～
火・木・金　賛美と祈りの集会	13:00～
火～木　夜の祈祷会	19:00～

水曜礼拝

1 部	13:00～
2 部	19:00～

金曜祈祷会　19:00～

各礼拝はインターネットでライブ中継しております　→　youtube.com/c/横浜天声キリスト教会

アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅
6 番 B 出口を出てまっすぐ徒歩 5 分
JR・関内駅より徒歩 10 分
京急線・日ノ出町駅より徒歩 10 分

関内駅から伸びる大通公園沿い、
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、
1F がファミリーマートになっております。

聖書メッセージをメールでお届けします。
左記コードを読み込み、
空メールを送信するだけ！

第 17 巻 37 号　　2022 年 9 月 11 日

横浜天声キリスト教会

礼拝　週報

〒231-0058　　パスター：　林和也　川合ゆきえ
神奈川県横浜市中区弥生町 2-17　ストークタワー大通公園 I-201
TEL/FAX：　045-326-6211
Homepage：　http://voice.of.christ.yokohama/
email：　ephes_03-tensei@yahoo.co.jp